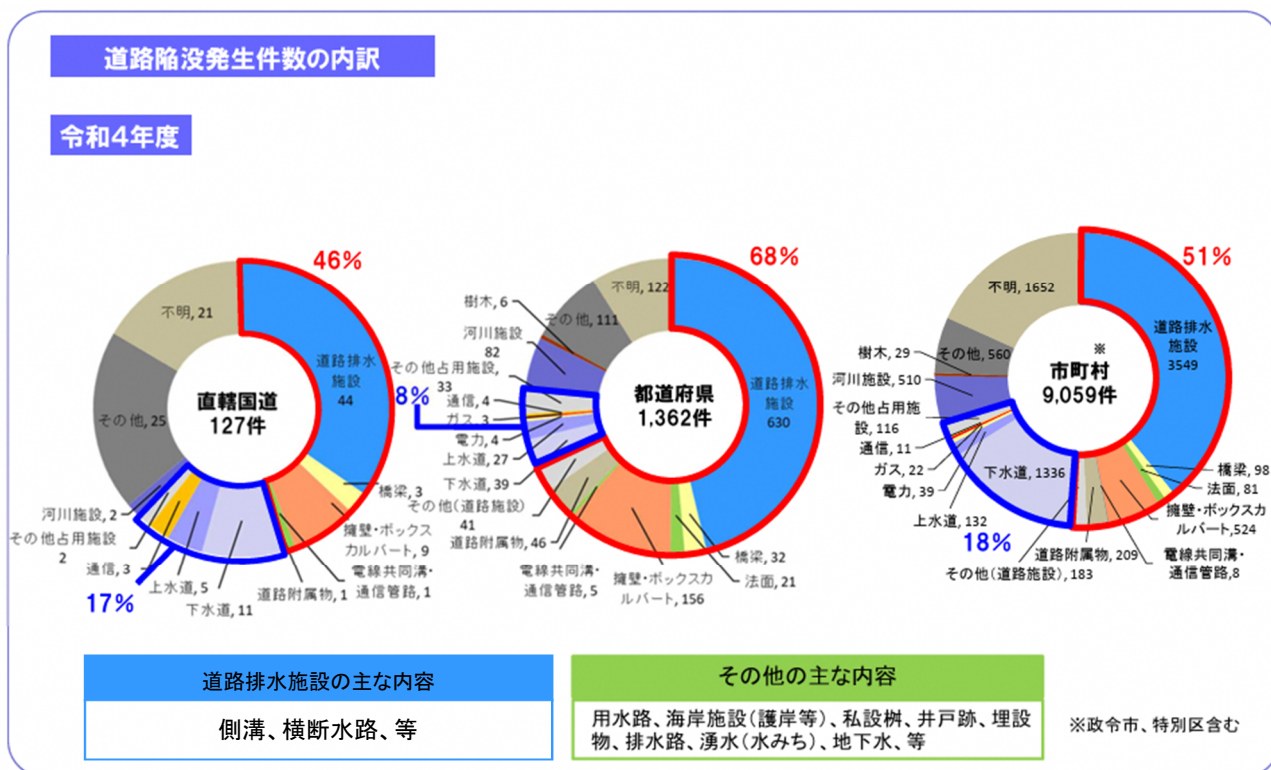


- 道路の維持管理は交通サービスの持続性と安全性を確保する上で重要です。
- 側溝や横断水路等の道路排水施設の老朽化に伴う道路陥没事故の発生リスクが高まっており、予防に努める必要があります。



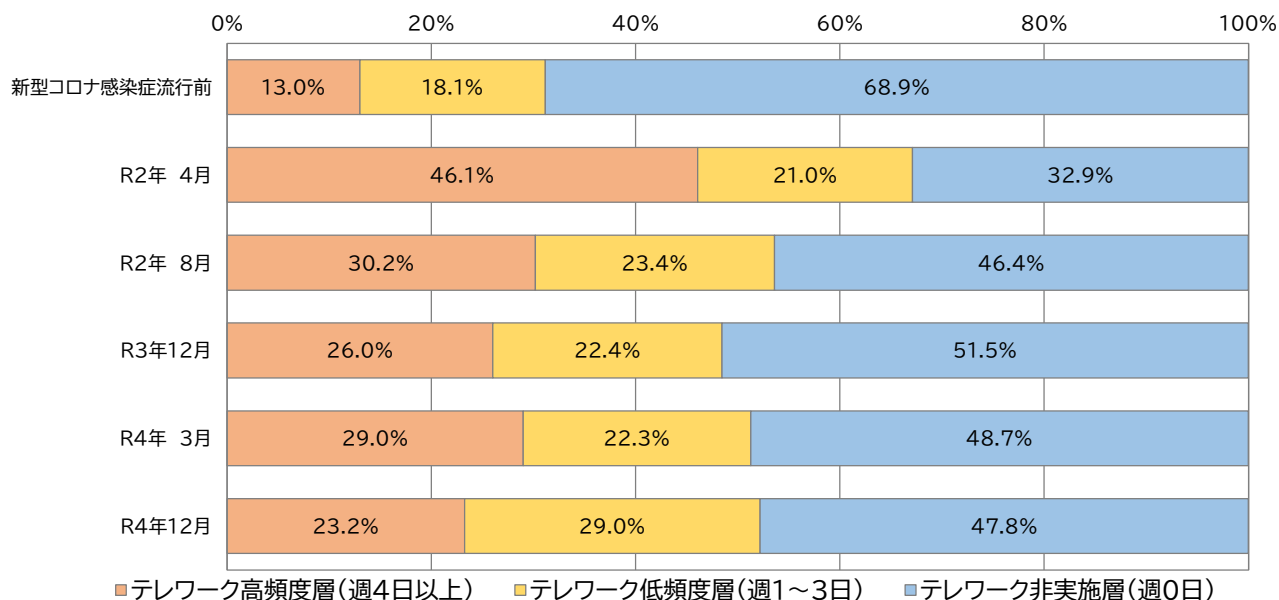
* ポットホールは含まない 道路施設が要因の陥没 道路占有物件が要因の陥没

(出典)国土交通省

図 道路の陥没発生件数とその要因(令和4年度)

(4) 多様なライフスタイルへの対応

- 情報通信技術の発展やグローバル化、少子高齢化、労働力不足といった社会課題を背景に、働き方や生き方が多様化しています。例えば、新型コロナウイルス感染症を契機に普及したテレワークは、令和4年12月時点で就業者の約5割が週1日以上実施しています。
- 従来の均一的なライフスタイルに合わせた交通手段の提供ではなく、個々の価値観や状況に合わせた柔軟な交通サービスの提供が求められています。



(出典)国土交通省 都市局 新型コロナ生活行動調査

図 東京都市圏における就業者のテレワーク実施率の推移

(5) 防災ニーズへの対応

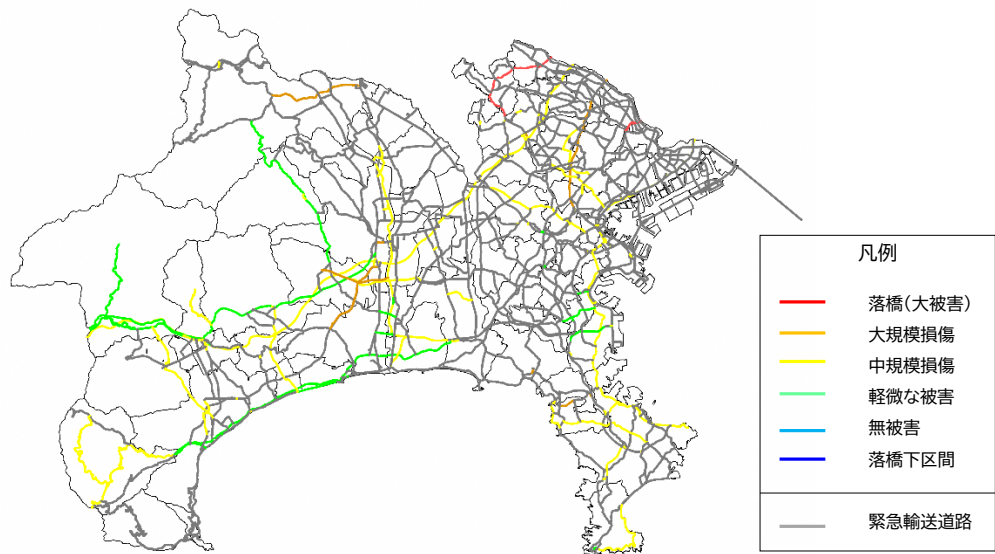
- 巨大地震や、豪雨等の災害リスクが考えられる中、交通分野においては、災害時に人や物資を運ぶ幹線道路の役割が重要になります。
- 都心南部直下地震や南海トラフ巨大地震等では、緊急輸送道路の被害が想定されており、緊急輸送道路の沿線地域の耐震化等の取組が求められています。

表 神奈川県が指定する緊急輸送道路(綾瀬市域に係るもの8路線)

	路線名	県及び市道路線名	区間
第1次 緊急輸送道路	第一東海自動車道 (東名高速)		市内全線
	県道 22 号	横浜伊勢原	市内全線
	県道 40 号	横浜厚木	市内全線
	県道 45 号	丸子中山茅ヶ崎	市内全線
第2次 緊急輸送道路	県道 42 号	藤沢座間厚木	市内全線
	市道 913 号線	(都)早川本蓼川線	市道 1629-1 号線交点~県道 42 号交点
	市道 1629-1 号線		県道 40 号交点~県道 45 号交点
	市道 1629-2 号線		藤沢市境~県道 45 号交点

※このほかに市指定緊急輸送道路補完道路あり

(出典)綾瀬市地域防災計画



(出典)神奈川県地震被害想定調査報告書(令和7年3月)

図 都心南部直下地震が発生した場合の橋梁がある緊急輸送道路の損傷想定

(6) 新しい技術・サービスへの対応

- 近年、交通分野では、技術・サービスの革新が進んでいます。例えば以下のような技術・サービスが登場しており、動向に注視しながら柔軟に取り入れていくことが求められています。

自動運転

- 自動運転技術により、安全性や交通効率の向上が期待されています。現在、自動車メーカーによる車両開発のほか、全国各地で自動運転バスに関する実証実験が行われており、過疎地域や運転者不足にある地域の解決策の一つとして期待されています。



(出典)茨城県境町

図 茨城県境町における自治体で初となる定時・定路線による自動運転バス

ドローン技術

- 空中を無人で飛行する小型機であるドローン技術の活用が期待されています。交通分野では物流サービスでの利用が始まっていますが、将来的には空飛ぶクルマ等のように人を乗せた移動サービスについても検討が始まっています。

EV、FCV

- 環境に配慮したEV(電気自動車)やFCV(燃料電池自動車)の開発が進んでおり、将来的な普及が見込まれています。

グリーンスローモビリティ

- 時速20km未満で公道を走る電動車を活用した移動サービスであり、全国の自治体で公共交通として導入が始まっています。

軽自動車	小型自動車	普通自動車
 4人乗り	 5人乗り	 10人乗り
 4人乗り	 6人乗り	 11人乗り
 4人乗り	 7人乗り	 18人乗り

※11人乗り以上の車両の運転には、中型自動車免許が必要になります。

(出典)国土交通省

図 グリーンスローモビリティの区分

都市型自走式ロープウェイ

- 渋滞解消や広域移動を補完する新たな移動手段として期待されています。
- 鉄道やモノレールよりも建設コストや工期が縮小でき、車両はすべて自動運転のため、運転者不足の解消にも貢献することが期待されています。

車両のシェアリング(自動車、自転車、小型モビリティ等)

- 複数の利用者が同じ車両を利用するシステムであり、一般的にはインターネットを通じて提供されるサービスです。個々の利用者は車両を所有することなく、必要に応じて共有できることから、資源の効率的な利用や都市部での移動手段の多様化を促進することが期待されます。また、交通渋滞緩和、駐車場の利用効率向上等、多くの利点があります。
- 近年では、自動車や自転車のシェアリングサービスに加えて、電動キックボード等の小型モビリティのシェアリングサービスも全国の自治体で広がっています。このほかにも多様なニーズに対応した新たなモビリティの開発・普及が進んでいます。

ライドシェアサービス

- 車を所有している個人のドライバーが、利用者を目的地まで運ぶサービスです。一般的なライドシェアサービスでは、専用のアプリケーションやWebプラットフォームを介して、利用者が車の利用をリクエストし、近くの利用可能なドライバーがそのリクエストに応じてサービスを提供しています。
- 日本では、地域交通の「担い手」「移動の足」不足解消のため、令和6年よりタクシー事業者の管理の下で、自家用車・一般ドライバーを活用した運送サービスの提供を可能とする日本版ライドシェア(自家用車活用事業)が創設されました。タクシー配車アプリデータ等を活用して、タクシーが不足する地域・時期・時間帯を特定し、地域の自家用車・一般ドライバーによって不足分を提供するものとして国や各自治体で検討されています。
- 神奈川県においても令和5年に「神奈川版ライドシェア検討会議」が設置され、「神奈川版ライドシェア(かなライド)」の運行が始まっています。

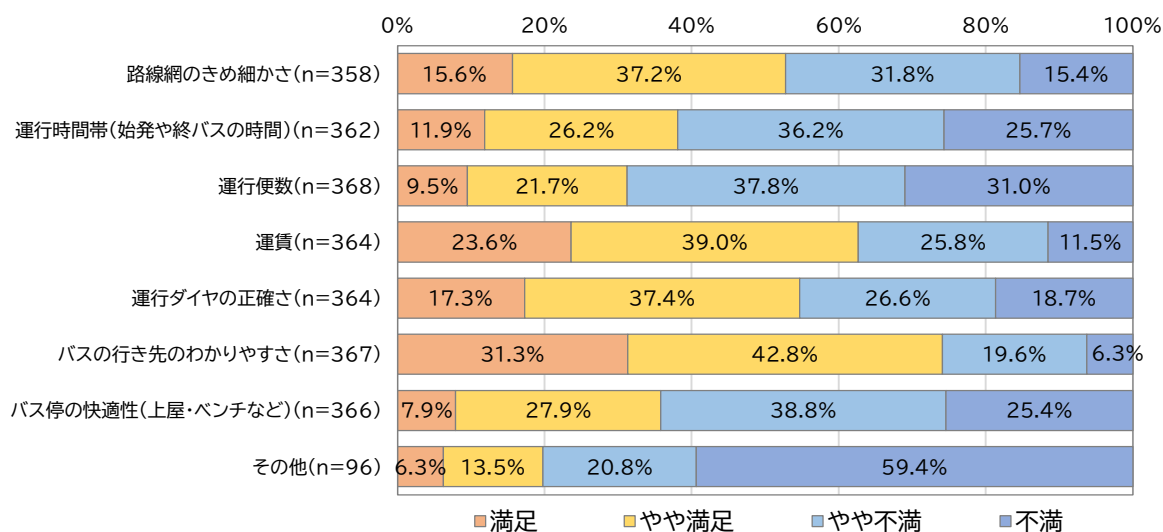
3-2 市民の交通に対する考え

「市民アンケート」実施概要

- 市民の交通に関する考えを把握するため、市民アンケートを実施しました。
 - ・ 調査地域：綾瀬市全域
 - ・ アンケート実施期間：令和5年7月31日～8月31日
 - ・ 調査対象：15歳以上の綾瀬市民 標本数 3,000人
 - ・ 抽出方法：住民基本台帳データを基に、年代別・地域別比率を考慮した無作為抽出
 - ・ 調査方法：郵送配付－郵送及びウェブ回答
 - ・ 回収件数：1,162票(うち、紙 783票、WEB 379票)
 - ・ 回収率(回収枚数/配布枚数)：38.7%
 - ・ 主な設問内容：移動実態、公共交通の利用実態、満足度等

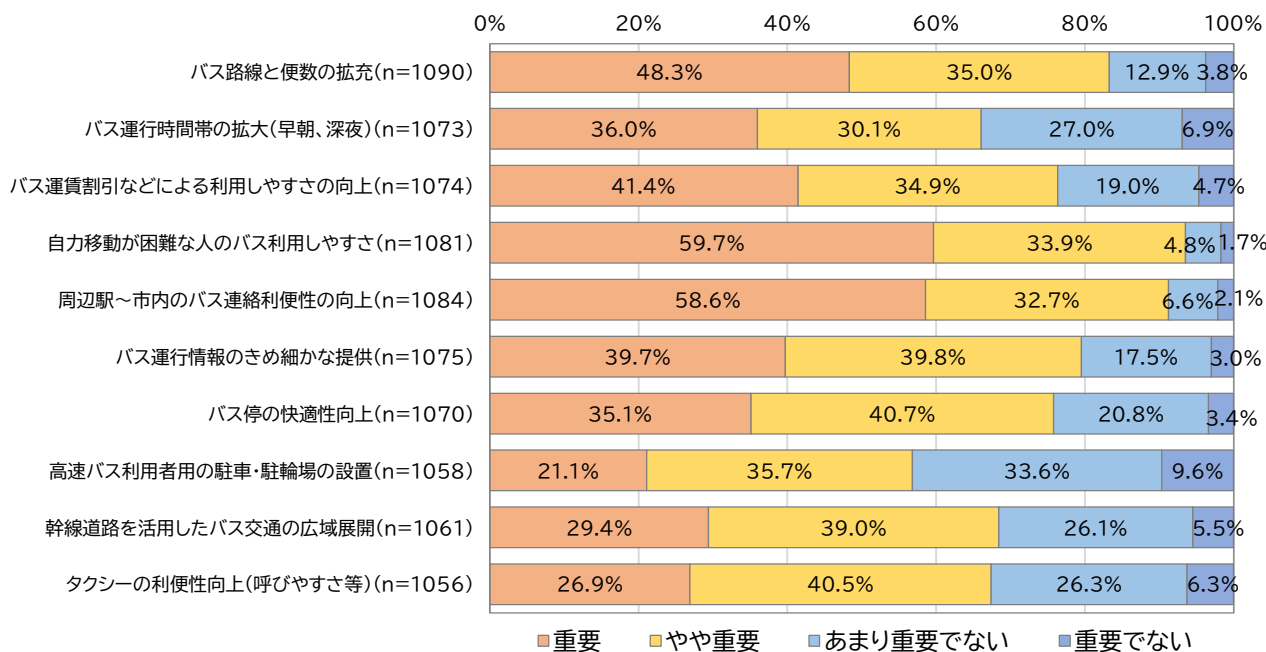
(1) 路線バス・コミュニティバスの利用満足度・今後の重要性

- 路線バス・コミュニティバスの利用満足度をみると、「運行便数」や「運行時間帯」について「不満」を示している割合が高い傾向にあります。
- 今後の公共交通整備の重要度をみると、特に「自力移動が困難な人のバス利用しやすさ」や「周辺駅～市内のバス連絡利便性の向上」について重要だと捉えている割合が高い傾向にあります。
- 引き続き、運行便数や運行時間帯等のバス利便性の向上策を検討するとともに、高齢者や障がい者等の利用のしやすさ、周辺駅から市内へのアクセスのしやすさについて検討することが求められています。



(出典)「綾瀬市総合都市交通計画」改定に関するアンケート調査(令和5年7～8月実施)

図 バスの利用環境における満足度

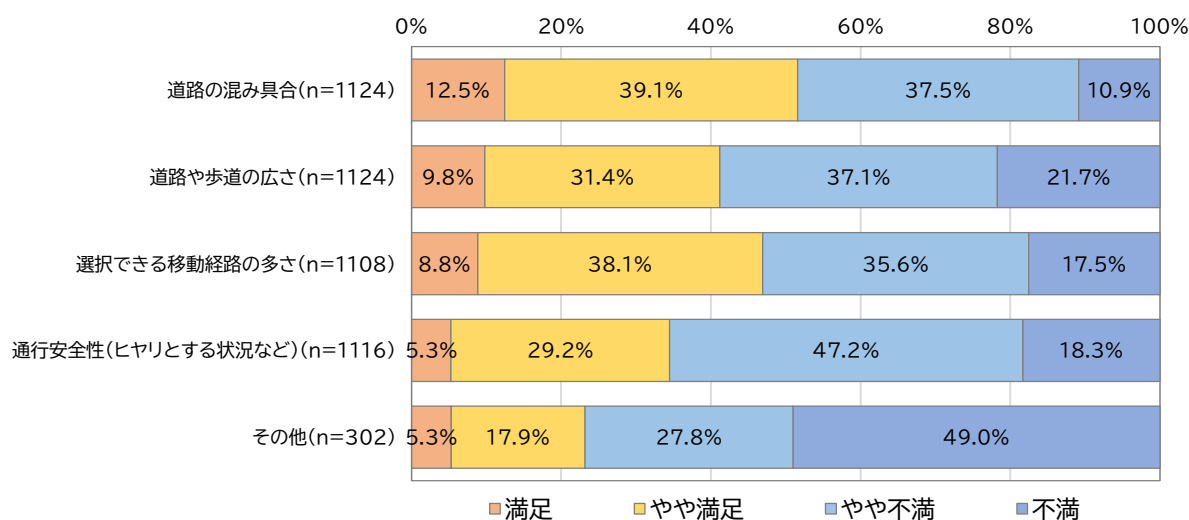


(出典)「綾瀬市総合都市交通計画」改定に関するアンケート調査(令和5年7～8月実施)

図 今後の公共交通整備に関する重要度

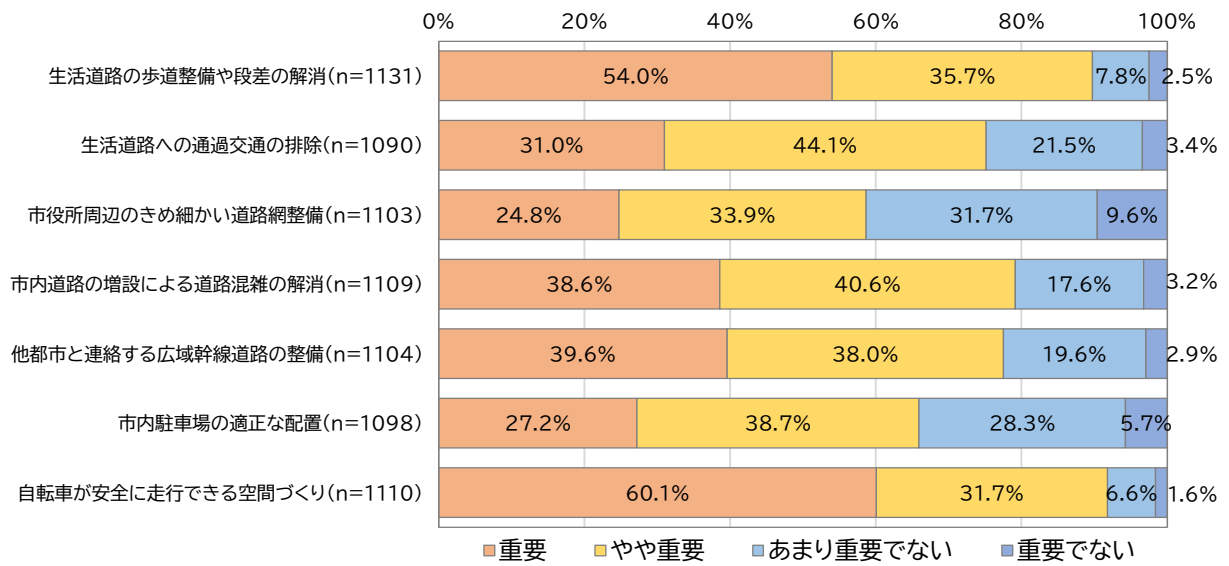
(2) 市内の道路状況の満足度・今後の重要性

- 道路状況の満足度をみると、「運行安全性」や「道路や歩道の広さ」等、物理的な面での不満が高い傾向にあります。
- 今後の道路整備の重要度をみると、特に「自転車走行環境」や「計画道路の歩道整備」、「段差解消」が重要だと捉えている割合が高い傾向にあります。
- 引き続き、幹線道路に加えて、生活に関連する道路や自転車の快適な走行環境の整備が求められています。



(出典)「綾瀬市総合都市交通計画」改定に関するアンケート調査(令和5年7～8月実施)

図 道路状況に関する満足度



(出典)「綾瀬市総合都市交通計画」改定に関するアンケート調査(令和5年7～8月実施)

図 今後の道路整備に関する重要度

3-3 交通をとりまく課題のまとめ

- これまでに挙げた現状や課題を踏まえ、本市をとりまく6つの交通課題を整理しました。

課題1

自動車交通量の適切な配分

- ・ 自動車交通量(特に通過交通)を幹線道路に誘導し、生活に関連する道路への流入を防ぐことで、交通事故の発生件数を減らし、安全・安心な暮らしにつなげることが求められています。

課題2

公共交通による移動ニーズへの対応

- ・ 若年層や高齢者、免許返納者等の公共交通のニーズが高く、これらのニーズに応える必要があります。
- ・ 障がい者や外国人等、移動に制限がある人への対応も必要です。

課題3

交通インフラ・サービスの維持

- ・ バスやタクシー、トラックの運転者不足、建設業の人手不足が社会問題となっています。
- ・ 持続性や安全性の面から道路をはじめとした交通インフラのハード面の強化が求められています。

課題4

多様なライフスタイルへの対応

- ・ 情報通信技術の発展やグローバル化、少子高齢化、労働力不足といった社会課題を背景に、働き方や生き方が多様化しており、従来の均一的なライフスタイルに合わせた交通ではなく、個々の価値観や状況に合わせた柔軟な交通サービスの提供が求められています。

課題5

防災ニーズへの対応

- ・ 都心南部直下地震や南海トラフ巨大地震等の大地震のほか、豪雨等の災害リスクへの備えが求められています。
- ・ 災害時に人や物資を運ぶ幹線道路の役割が重要になります。また、沿線地域の不燃化、耐震化等の取組が求められています。

課題6

新しい技術・サービスへの対応

- ・ 自動運転などの交通分野における新しい技術・サービスへの動向を注視し、社会や地域の実情に即した施策展開を柔軟に進めていくことが求められています。